

愛知県蒲郡市で確認された県内初記録となるボナパルトカモメ *Chroicocephalus philadelphia* (チドリ目カモメ科)

高木 慎介¹⁾

First record of Bonaparte's Gull *Chroicocephalus philadelphia*
(Charadriiformes: Laridae) from Aichi prefecture

Shinsuke Takagi¹⁾

はじめに

ボナパルトカモメ *Chroicocephalus philadelphia* (Ord, 1815) は、アラスカ南東部からカナダ東部にかけて繁殖し、冬季は北及び中央アメリカの沿岸部に渡る。日本では迷鳥 accidental visitor として、北海道東部・中部、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、三重県で記録がある（氏原・氏原, 2019; 瀬古, 2021; 日本鳥学会, 2024）。筆者は、2024年2月12日及び3月16日に愛知県蒲郡市で本種の第1回冬羽を観察したため、ここに報告する。

観察日時・場所

2024年2月12日14時55分～15時13分に愛知県蒲郡市春日浦海岸(34° 48' 13.7" N, 137° 11' 34.7" E 付近)で観察した。また、2024年3月16日16時47分に同市竹島(34° 48' 46.9" N, 137° 13' 57.5" E 付近)においても観察した。

観察した環境

春日浦海岸及び竹島周辺は遠浅海岸であり、どちらも干潮時には砂質の干潟が広がる。双方ともに潮干狩り場として整備されており、行楽客が多い。

観察距離

10～50 m 程度。16 倍の防振双眼鏡を用いて観察し、デジタル一眼レフカメラに焦点距離 800 mm のレンズを装着したもので撮影した。

種及び齢の同定

当該個体はユリカモメ *Chroicocephalus ridibundus* (Linnaeus, 1766) に外見が似ていたが、周囲のユリカモメよりも一回り小さく、小型カモメ類の1種と考えられた。当該個体は嘴が細く黒く、尾は円尾で、小雨覆の大部分、中雨覆及び大雨覆の一部が暗色で、翼後縁及び尾羽先端に黒帯があり、翼下面は翼後縁を除いて白く、足は薄いピンク色だった（第1図）。これらの特徴に合致する種は、世界のカモメ類でボナパルトカモメのみである（Olsen, 2018）。当該個体は雨覆に暗色の羽があること、翼後縁及び尾羽先端に黒帯があることから齢は第1回冬羽である（Olsen, 2018; 氏原・氏原, 2019）。

ボナパルトカモメの類似種としては、ユリカモメ、ズグロカモメ *Saundersilarus saundersi* (Swinhoe, 1871)、ヒメカモメ *Hydrocoloeus minutus* (Pallas, 1776) が挙げられる。ユリカモメの第1回冬羽は当該個体よりも大きく、嘴と脚は橙黄色から橙色で、翼上面の模様はより

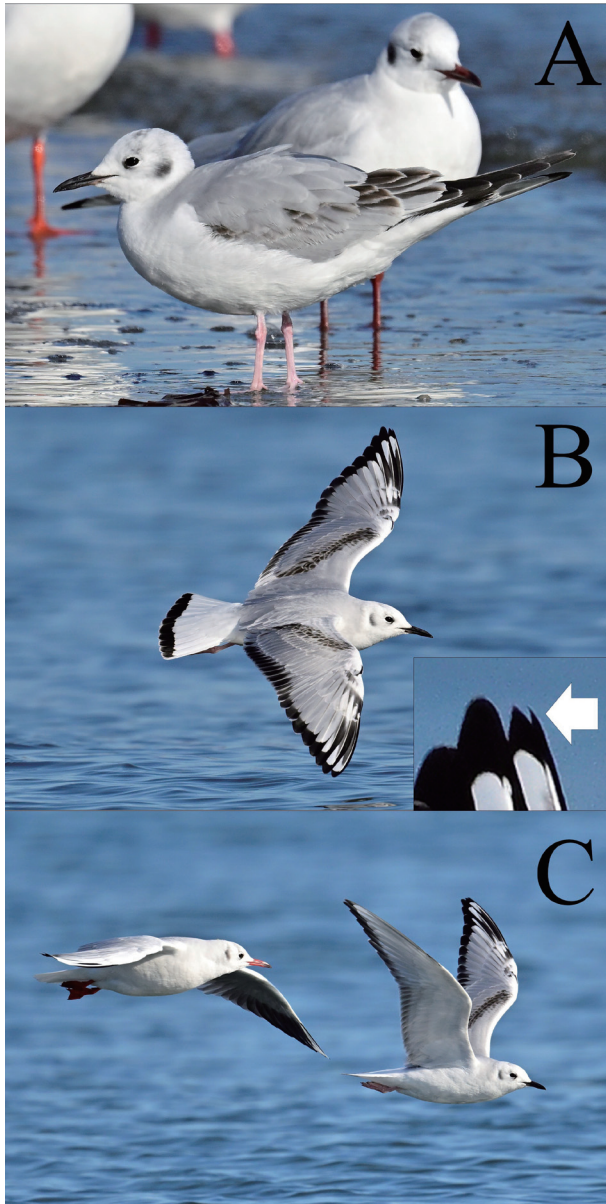
1) 愛知県豊橋市西高師町字小谷 26-21. 26-21 Kotani, Nishitakashi-cho, Toyohashi, Aichi 441-8154, Japan. E-mail: k6117824@kadai.jp

原稿受付 2024年10月4日。Manuscript received Oct. 4, 2024.

原稿受理 2024年10月27日。Manuscript accepted Oct. 27, 2024.

キーワード: *Chroicocephalus philadelphia*, ボナパルトカモメ, 蒲郡市, 愛知県初記録。

Key words: *Chroicocephalus philadelphia*, Bonaparte's Gull, Gamagori city, Aichi prefecture.



第1図. 蒲郡市で観察されたボナパルトカモメ第1回冬羽(2024年2月12日撮影)。

A, 側面(奥はユリカモメ); B, 翼上面(右下拡大図は左翼最外側初列風切先端の拡大で、矢印は欠損部を示す); C, 翼下面(右の個体, 左はユリカモメ)。

薄く、初列風切下面が翼後縁以外も黒い点で異なる。ズグロカモメの第1回冬羽は嘴が短くて太く、翼上面の模様はより薄く、次列風切後縁に幅広い白色帯があり、初列風切下面が翼後縁以外も黒い点で異なる。ヒメカモメの第1回冬羽は当該個体よりも小さく、頭がより大きく、翼がより短く、翼上面に暗色の「W」状の模様があり、翼後縁の黒帯がない点で異なる(Olsen, 2018; 氏原・氏原, 2019)。



第2図. 蒲郡市で観察されたボナパルトカモメ第1回冬羽(2024年3月16日撮影)。

右下拡大図は左翼最外側初列風切先端の拡大で、矢印部分に第1図Bに示したものと類似の欠損がある。

観察状況

2024年2月12日に春日浦海岸で観察した際は、干潟及び周囲の海上に一万羽程度のユリカモメ群が渡来しており、当該個体はユリカモメとともに干潟や波打ち際を歩きながら地面をついばんでいた。採食内容は写真を拡大して確認しても全く見えず、微小生物を採食していると考えられた。発見後15分ほどで、周囲の10羽程度のユリカモメとともに南西方向に向かって飛び立ち、以降確認できなかった。当該個体は左翼最外側初列風切先端にわずかな欠損があった(第1図B)。同年3月16日に竹島で観察した際は、20羽程度のユリカモメ群とともに波打ち際で歩きながら水中をついばむ当該個体を発見した。発見直後に観光客に飛ばされ、以降確認できなかった。左翼最外側初列風切先端に2月12日に確認したものと類似した欠損があり、同一個体と考えられた(第2図)。鳴き声については、両日ともに確認できなかった。

まとめ

本記録以前に愛知県でのボナパルトカモメの記録はなく(氏原・氏原, 2019; 瀬古, 2021; 日本鳥学会, 2024)、本記録が愛知県におけるボナパルトカモメの初記録となる。

謝 辞

本稿を執筆するにあたり、先崎啓究氏には文献を提供していただいた。この場を借りて深く感謝申し上げます。

る.

引用文献

日本鳥学会, 2024. 日本鳥類目録改訂第 8 版. 日本鳥学会, 東京,
506 p.

Olsen, K., 2018. *Gulls of the World*. Christopher Helm, London, 368 p.

瀬古智貴, 2021. 多摩川におけるボナパルトカモメの観察記録.
Strix, **37** : 97–100.

氏原巨雄・氏原道明, 2019. 決定版 日本のカモメ識別図鑑. 誠
文堂新光社, 東京, 339 p.